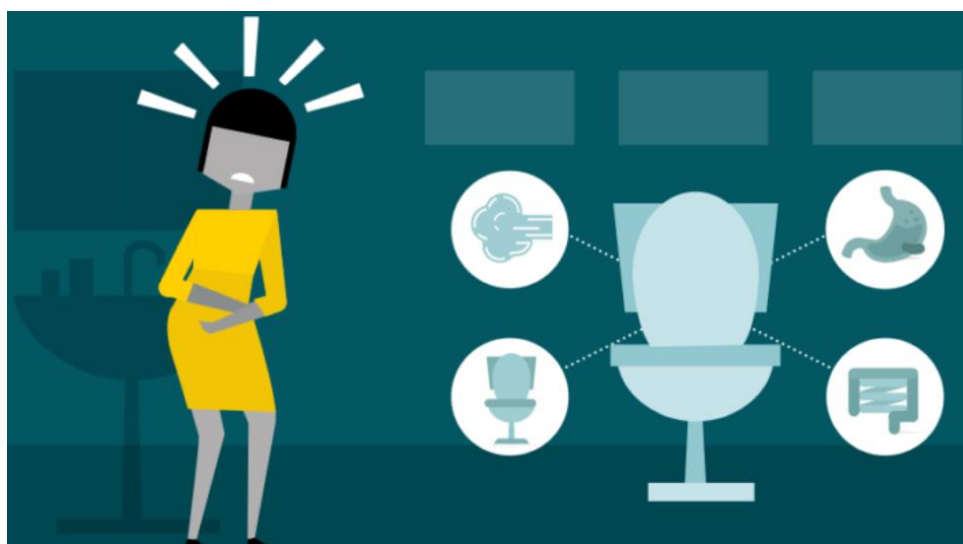


# 過敏性腸症候群を腸音の分析で 診断

腸音を利用した非侵襲的診断法により、過敏性腸症候群（IBS）を高い精度で検出できるという研究結果が、米国消化器病週間（DDW2018）で発表されました。



西オーストラリア大学の Xuhao Du 氏らは、腹部の音を収集してその特徴やパターンを機械学習により同定する腸音解析ベルトを開発。IBS の診断を受けている患者群と消化器系に問題のない人を対象に、絶食中の 2 時間および標準食の摂取後 40 分間の腸音を記録しました。



IBS 群 15 人と対照群 15 人で検証を行ったところ、腸音による IBS の正診率は、感度 87%、特異度 87%でありました。